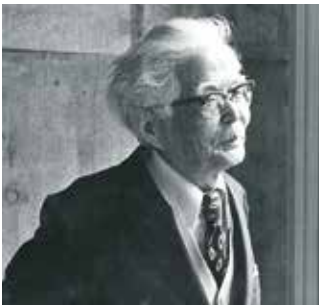
芹沢光治良ノート（6）

『狭き門より』を読んでみませんか？

生誕 130 年





『狭き門より』
（小学館 2025 年）

芹沢光治良（1896-1993）

作家（エクリバン）。静岡県沼津市生まれ。人間主義的な作風で知られる。

2026 年

名作『人間の運命』『神の微笑（ほほえみ）』の著者

芹沢光治良（せりざわこうじろう）は1896年5月4日に静岡県沼津市の漁村我入道（がにゅうどう）に生まれ、二十歳（はたち）で高等学校（旧制）へ進学するまで住みました。

大学卒業後は、官吏を務めたあと、光治良は28歳で22歳の藍川金江と結婚してフランスに留学し、社会統計学を研究しました。



パリにて家族と（1928年頃）

留学中に肺結核にかかりますが、一命をとりとめて、療養するなかで生き方を見つめなおし、やがて作家になる決心をします。

帰国した約1年半後、1930年4月33歳のとき、「ブルジョア」が雑誌『改造』の懸賞小説一等に当選、デビューを果たします。



療養中の光治良（1928年頃）



『ブルジョア・結核患者』
（小学館 2023年）

その後は、人間のより良い生き方をテーマにした作品を数多く発表しました。なかでも『人間の運命』や 89 歳から毎年1冊ずつ書き下ろした『神の微笑』から『天の調べ』の 8 作品は、人生の意味を読者にやさしく問いかける芹沢文学の代表作です。



『人間の運命』執筆の頃　自宅書斎で（1967 年）

芹沢光治良の作品について

大河小説　「人間の運命」

長編小説　「巴里（パリ）に死す」「サムライの末裔（まつえい）」「孤絶」「狭き門より」「神の微笑（ほほえみ）」「天の調べ」など

短編小説　「ブルジョア」「死者との対話」「落葉の声」など

日　　記　「芹沢光治良戦中戦後日記」

エッセイ、少女小説など幅広い読者を対象とした作品が約 700 点あります。

芹沢光治良がひきうけた役職は ――

日本ペンクラブ会長、日本文芸家協会理事、日本ユネスコ国内委員、日本芸術院会員、ノーベル文学賞推薦委員などです。

日本では勲三等瑞宝章、日本芸術院賞、沼津市名誉市民に、フランスでは友好国際大賞、コマンドール章に選ばれました。



沼津御用邸の門前で（1963 年）

長編小説『狭き門より』は ――

この作品は、深夜、作者の枕辺に立って、自分のことを書いて欲しいと訴えるように語った「美子（よしこ）」という女性を主人公にしています。

美子は、自分の生き方を認めてくれない祖父から逃れるように、建築設計技師の敏と結婚し、これまで目指してきた画家への勉強も止め、室内装飾で夫の仕事を支えてきました。

しかし、「子どもが欲しい。」と強く願う美子は、「自分が設計した建築が子どもだ。」と言いきる



東京都中野小滝町（現東中野）の戦前の芹沢邸（1931 年頃）

敏とは求める生き方が大きく違うことに気づき、悩みます。

美子は、幼いころに別れた父の生まれた町を独りで訪ねます。東京へ戻った美子は夢の中で初めて父に会い、夢の中の父は、自分の生き方を追究している美子を励まします。

その後も不思議な偶然が、自己を追究する美子を援けます。

父がパリへ渡ってキュリー夫人の研究所で働いたこと、産婦人科医としても評価されていたことを知った美子は「キュリー夫人伝」を読み、互いに尊重し援けあって研究に取組んだキュリー夫妻の生き方に感動します。

敏と別れる決心をした美子は、ある日、偶然に石川に会います。石川は 10 年以上前、祖父の病院の外科医師でした。当時石川は、美子の画

壇デビュー作 2 点を弟が破り捨てるのを見て、密かに拾って、専門家の修復で蘇らせ、いまも大切にしていると話します。

さらに、あの頃、美子を見そめて祖父の下からさらって逃げようかと本気で思った、と明かします。

敏との離婚が成立した美子は石川から求婚され、石川と一緒に生活すれば、この先の狭い門もくぐれると確信します。



『狭き門より』(新潮社 1976 年)

芥沢作品の魅力（みりょく）のひとつは、
“普遍性（ふへんせい）”です。

読者からのメッセージ・・・・・・

『狭き門より』を読んで



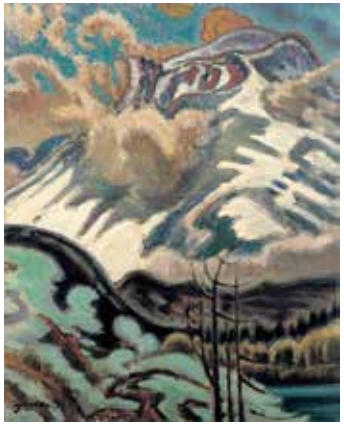
『新潮現代文学』第 6 巻
人間の運命（父と子）・狭き門より
（新潮社 1980 年）

（読者 I）

原川美子の将来設計物語。

結婚というイベントを経て 12 年、これから死んだように生きるのか、それとも生きたいように生きるのか。

人生ままならないことが多いが、どうせ生きるなら後者を選んでみれば？という作者の声が聞こえてくる。



小山敬三『浅間山・風』
（1966 年 小諸市立小山敬三美術館所蔵）

（読者 A）

「狭き門」をくぐり、〈わが新生〉を芸術家としてより良く、また女性（妻・母）として幸せに生きようと願う美子。その過程で〈生命の本源で、この宇宙を狂いのない法則で動かしている存在〉に〈謙虚に祈ることを知り〉、魂―〈目に見えない貴いもの〉―に形を与えるのが絵画だと気付く。

「狭き門」を押し開けて通る、その道行には、石川との再会という歓喜があった。聖堂にて、神によって結ばれようとしている、石川と美子。その聖堂の前には、あたかも〈天国の門〉。二人はその門をくぐり、幸せな歩みに向かおうとする予兆でこの物語は終わる。

美子が作者に、自分のことを書いて欲しいと切々と語ったのは、この小説の【この時】から 10 年以上経った後とのこと。小説の時間構造と人物設定、人生表現の豊かさが心に深く響く。

（読者 C）

美子は永らく誤解していた父が、実は素朴でこころ優しい人柄だったと知り、自分の望む生き方を実現したいと思います。人づてに聞かされてきた父の暗いイメージを払しょくできた美子は、生きることを積極的・前向きに考えるようになるのです。美子の、すなおで素朴な心が「気づき」を得たのではないか、と思います。



小山敬三『ペルシャ壺のばら』
（1973 年 小諸市立小山敬三美術館所蔵）

図書館にある本

から触れてみて下さい。

作品の登場人物は、読者とともに喜んだり、

怒ったり、悲しんだり、楽しんだりします。

だれにも分かる誠実な文章です。



沼津市芹沢光治良記念館

静岡県沼津市我入道蔓陀ヶ原 517-1

電話 055-932-0255



中野区立中野東図書館・
芹沢光治良記念文庫

東京都中野区中央 1-41-2

電話 03-5937-3559

【入手可能な芹沢光治良の主な作品】



『芹沢光治良戦中戦後日記』



『巴里に死す』



少女小説集
『緑の校庭』



『狭き門より』



『サムライの末裔』



『孤絶』



『ブルジョア・結核患者』



『芥沢光治良文学館』
全 12 巻



愛蔵版〈神と人間〉
全 8 冊セット



愛蔵版『人間の運命』
全 7 冊セット
（新潮社版）

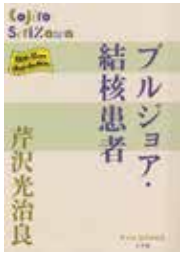


完全版『人間の運命』
本編 16 巻・別巻 2 巻
（勉誠社版）

【入手可能な電子書籍】



『狭き門より』
（小学館）



『ブルジョア・結核患者』
（小学館）



『孤絶』
（小学館）



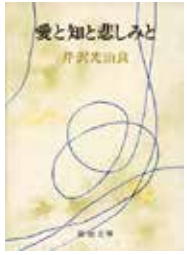
『サムライの末裔』
（小学館）



『神の微笑』
（新潮社）



『愛と死の書』
（新潮社）



『愛と知と悲しみと』
（新潮社）



『離愁』
（KADOKAWA）



『故国』
（KADOKAWA）



『坂の上の家』
（KADOKAWA）



『春の谷間』
（KADOKAWA）

【あとがき】

本年（2026 年）は、芹沢光治良の生誕 130 周年を迎えました。

今回は『狭き門より』を紹介しました。長い作家生活の中で、芹沢氏は三人の女性の生を描いてきました。『愛と死の書』の夫に尽くした若子、『巴里に死す』の子に寄り添った伸子、そして本作で自己に生きた美子。美子が自らの内なる声に耳を澄まし、迷いながらも“狭き門”を選び取っていく姿に、皆様はどのような思いを抱かれたでしょうか。

パリで親交を深め、共に軽井沢を愛した芹沢光治良と小山敬三。小山が芹沢作品の挿画を描くなど、二人の絆は文学と美術の枠を超えて結ばれていました。画家を志す女性を描く本作『狭き門より』にも、画伯との交流が色濃く投影されていることでしょう。

次のノートも、どうぞお楽しみに。

芹沢光治良ノート（6）

2026 年 5 月 4 日 発行

監　修：勝呂 奏（元･桜美林大学教授）

編　集：池田三省　劔持直樹　清水美穂　野見山恵美子　不破久温

協力・写真提供：沼津市芹沢光治良記念館

小諸市立小山敬三美術館

発　行：一般財団法人 芹沢光治良記念文化財団

〒164-0003 東京都中野区東中野 5-8-3

メール　serizawa.52@nifty.com

ホームページ（URL）https://serizawa-kojiro.com

『芹沢光治良ノート』は財団ホームページに掲載されています。

『芹沢光治良の電子書籍一覧』(BOOK ☆ WALKER) が掲載されています。

印　刷：有限会社マエダ印刷

文学は
もの言わぬ
神の意思に
言葉を
与えることだ
光治良